

STOPドミノ骨折 骨折リエゾンサービス (FLS) って何?

骨粗鬆症による脆弱性骨折は、若いときには大したことがなかったがで骨が折れてしまう状態です。骨粗鬆症で骨折しやすい代表的な部位は脊椎（腰や背中）、大腿骨近位部（股の付け根）、上腕骨近位部（肩の付け根）、橈骨遠位端（手首）です。最初の骨折を生じさせない一次予防は重要ですが、骨粗鬆症検診の受診率は全国で5%（北海道はさらに低く1%）ほどしかなく、その関心の低さが治療の開始率を下げている一因でもあります。そこで、右記の骨折をきっかけにして骨粗鬆症の検査、治療を広めようというのが二次予防です。

骨折リエゾンサービス (fracture liaison service: FLS) は、病院内のいろいろな職種の方が協力して、脆弱性骨折患者さんの骨粗鬆症治療開始率、治療継続率の向上を図り、転倒予防を実践することで二次性骨折（いわゆるドミノ骨折）を防ぎ、健康寿命を延ばすことを目的とした取り組みです。今、函館市内の多くの病院でその取り組みが行われてきています。

特に骨折の危険が高い患者さんには、骨形成促進薬という注射薬を提案させていただく場合があります。骨形成促進薬は早期に骨密度を上げる非常に良い薬なのですが、使用には条件があり誰にでも使えるわけではありません。患者さんごとに適切な治療薬が選択されますので、担当の医師もしくは看護師さん、薬剤師さんの話をよく聞いて、納得する治療を選ぶようにしてください。



市立函館病院

整形外科

平賀

康晴 主任医長

略歴

平成4年、弘前大学医学部卒業。公立米内沢病院、青森労災病院、虎の門病院、青森県立中央病院、弘前記念病院、むつ総合病院、公立野辺地病院、市立函館病院、弘前大学大学院医学研究科などの勤務を経て平成26年、市立函館病院に着任。日本専門医機構認定整形外科専門医。